資料2

第3次丹波市環境基本計画

骨子案

〇計画の基本的事項
・計画の趣旨
・計画の対象区域
・計画の期間
・計画の位置づけ
・第2次丹波市環境基本計画の評価
・市民の環境に関する認識・満足度（市民アンケート結果の概要）
・環境をとりまく国内外の主な動向
・基本的視点

〇市の環境に関する主な特徴
・丹波市の環境に関する主な特徴
・丹波市の環境に関する「強み」「弱み」「機会」「脅威」

〇目指すべき環境像と実現に向けた施策体系
・全体像
・目指すべき環境像
・基本目標
・目指すべき環境像と基本目標の実現・達成に向け必要なこと
・施策の柱・施策の方向性

〇具体的施策　※詳細は次回検討

〇計画の推進体制と進行管理　※次回検討

〇資料編

計画の基本的事項

◆計画の趣旨

丹波市環境基本計画は、丹波市環境基本条例第8条の規定に基づき、同第3条に示す基本理念の実現を図ることを目的に、第7条に示す基本方針を総合的かつ計画的に進めるために策定するものです。

これまで、丹波市では平成19年3月に策定した丹波市環境基本計画（第1次計画）、及び平成29年3月に策定した第2次丹波市環境基本計画に基づき、環境施策を推進してきました。第2次環境基本計画は、策定から10年が経過し、令和8年度をもって計画期間の最終年度を迎えました。

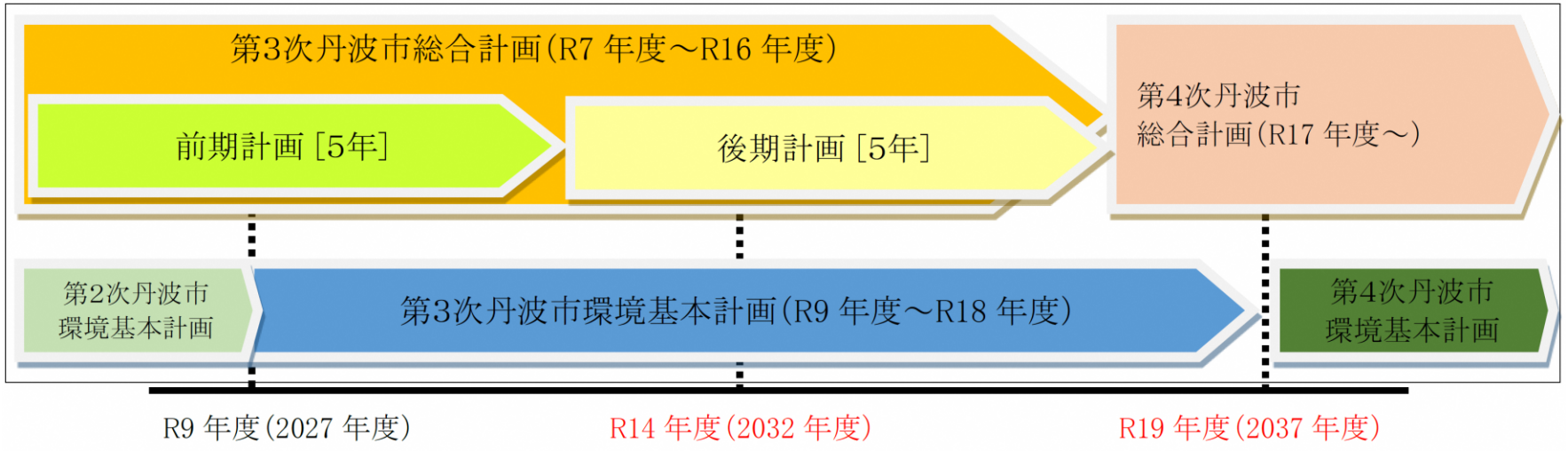
この10年間の間に、地球温暖化による異常気象の常態化をはじめ、社会情勢や環境問題は大きく変化しており、これらの変化や新たな問題に的確に対応できる、第3次丹波市環境基本計画を策定します。

◆計画の対象区域

丹波市全域を対象とします。

◆計画の期間

本計画は令和9年度から令和18年度までの10カ年計画とします。そのため、中長期的な視点をもって、将来を見据えた計画とする必要があります。社会経済情勢の変化や科学技術の進展及びこれらに伴う環境問題が大きく変化した場合には、必要に応じ見直しを行います。

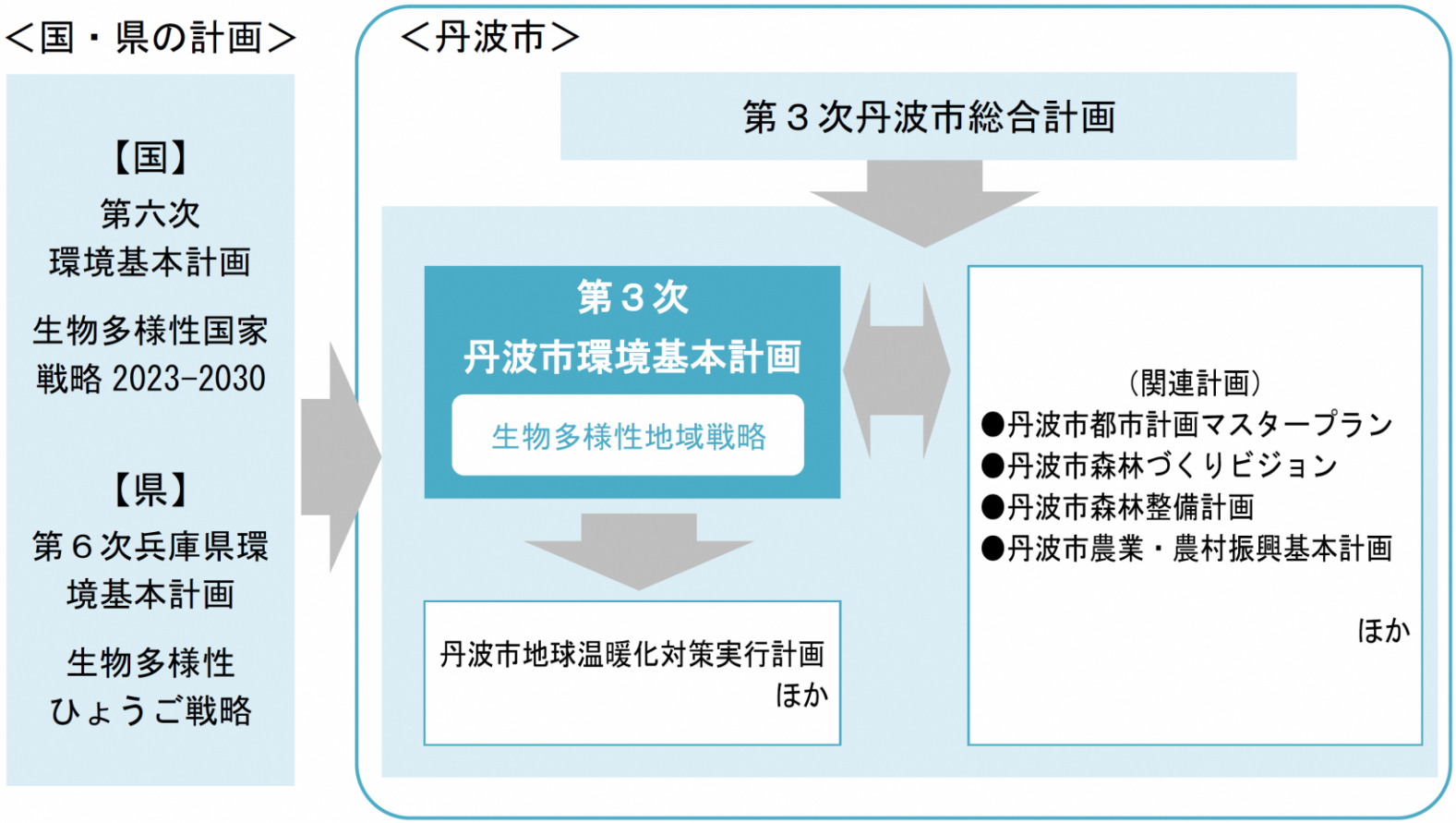


◆計画の位置づけ

本計画は、本市の行政計画の最上位に位置づけられる第3次丹波市総合計画を環境側面から具現化するための基本的な計画として定めるものです。

他の行政計画に対しては、環境面からの指針を示すものとなり、本市の環境政策の根幹となります。策定にあたっては、国や県の環境関連計画と整合を図ります。

また、生物多様性基本法に基づく生物多様性地域戦略を包含した計画とします。



◆第2次丹波市環境基本計画の評価

第2次丹波市環境基本計画では、5つの基本目標を掲げ、その実現に向けた取組を推進してきました。各基本目標の主な取組状況と今後に向けた主な課題をまとめました。

【基本目標1】“里地里山”の保全・再生と循環利用

森林の適正管理と整備の推進	林業事業体との連携により、経済林の適正管理と森林資源の循環利用を進めてきました。奥山や急斜面の森林は二酸化炭素吸収源と位置づけ、環境保全林として整備してきました。
里山文化の普及啓発	里山文化啓発冊子『丹波里山文化物語』を制作し、丹波の里山に育まれた自然と暮らしの関わりや里山文化の普及啓発を行いました。
CO2吸収源としての森林活用	市有林等の二酸化炭素吸収量をクレジット化する「J-クレジット制度活用事業」を進めてきました。
丹波市産材の利用促進	住宅等への丹波市産材の利用を補助し、市産材利用と市内林産業活性化を推進してきました。
有機農業の推進	有機JAS認証、有機質堆肥の散布、慣行栽培から有機栽培への転換等を支援してきました。また、有機農業の推進に向け「オーガニックビレッジ宣言」をしました。
有害鳥獣対策の推進	「丹波市鳥獣被害防止計画」を策定し、鳥獣被害防止施策の推進を図っています。鳥獣被害防止柵の資材費助成等により有害鳥獣の防除を進めてきました。
特定外来生物の防除	クビアカツヤカミキリ（令和7年市内初確認）の早期発見・早期防除による被害拡大防止を進めてきました。高校、事業者、地域住民等と連携してオオキンケイギク防除活動を実施してきました。
新規就農者の確保・育成	農業機械や施設の導入、就農相談、「農の学校」の運営等により、新規就農者の確保・育成を進めてきました。

【今後に向けた主な課題】
- 適切な森林整備の継続と丹波市産材の利用促進が必要
- 有害鳥獣による農作物被害等が続いており、地域と連携した継続的な対策が必要
- 農作物被害や生態系影響を防ぐため、外来種の早期発見・早期防除と被害拡大防止が必要

【基本目標2】資源を大切にするライフスタイルの定着

ごみの資源化の推進	資源化率向上のために、剪定枝・刈草、紙製容器包装等の資源化を行っています。また製品プラスチックの資源化と容器包装プラスチックとの一体的な回収を開始しました。
ごみ分別アプリによる適正分別の促進	ごみの収集日、分別区分、ごみを出す際の注意点等を確認できる「丹波市ごみ分別アプリ」を継続して配信し、市民による適正な分別を支援してきました。
ごみの減量	燃やすごみの減量を重点的に進め、ごみの発生抑制や再使用を呼びかけてきました。
生ごみ減量の推進	家庭から排出される生ごみの減量を推進するため、生ごみ処理容器購入費の一部を助成しました。

【今後に向けた主な課題】
- 全国に比べ、ごみ発生量が少ない一方でごみの資源化率が比較的低いため、さらなる資源化率の向上が必要

◆第2次丹波市環境基本計画の評価（続き）

【基本目標3】地球温暖化の防止

ゼロカーボンシティ宣言と市民行動の推進	2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「丹波市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、市民、事業者、行政が一体となって脱炭素社会の実現に取り組む方針を示しました。日常生活で身近に実践できる取組を「丹波市ゼロカーボンアクション」として整理し、市民への普及啓発を実施してきました。
地球温暖化対策実行計画の策定	「丹波市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定し、温室効果ガス排出削減、再生可能エネルギーの導入及び気候変動への適応を一体的に進めることとしました。
公共施設の省エネ化	市役所の事務・事業について、公共施設の設備運用の改善や省エネ化を進めてきました。令和7年からは、公共施設への再エネ電力の導入を進めてきました。また、公共施設の省エネ化を進めるため、LED照明に更新する事業を進めています。
公用車への低公害車導入	公用車の更新時に低公害車の導入を進めてきました。
公共交通の維持・利用促進	鉄道利用者へのポイント助成、路線バス事業者への運行補助や、通学定期券の購入補助、デマンド（予約）型乗合タクシーの運行等により、公共交通の維持・利用促進を進めてきました。
再エネ設備等の導入支援	市内の住宅や事業所におけるエネルギー利用の最適化・効率化を進めるため、太陽光発電設備、電気自動車等の導入費用を一部補助してきました。
木質バイオマス利用の促進	薪ストーブ、薪ボイラーの購入を支援し、化石燃料から木質燃料への転換、里山整備及び森林資源の地産地消を進めてきました。（R7累計補助台数：150台）また、地域の活動組織が間伐材等を搬出し、薪ボイラーや薪ストーブの燃料として利用する「木の駅プロジェクト」が進められ、林地残材の活用と森林資源の地域内循環が図られてきました。
クーリングシェルターの開設	暑さをしのぐ一時避難場所として、市内の公共施設等を指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）に指定し、「涼み処 まごころ くーる すぽっと」として開設しました。
地域防災力の強化	自主防災組織による防災訓練、「マイ避難計画・個別避難計画」の作成支援、防災フェスタ等を実施してきました。（R7訓練実施組織数：102組織）

【今後に向けた主な課題】
- 再エネ導入・省エネ推進による温室効果ガス排出量の削減を加速させることが必要
- 移動の脱炭素化に向け、市民の主要な移動手段である自家用車の電気自動車への転換や公共交通の維持、利用促進が必要

◆第2次丹波市環境基本計画の評価（続き）

【基本目標4】快適で安心して暮らせる環境の保全

不法投棄の防止	啓発看板の設置、環境パトロール等により、不法投棄の防止を進めてきました。
地域協働による河川環境の保全	自治会等による河川愛護活動への支援及び河川の除草作業の委託により、地域住民と協働して良好な河川環境を維持してきました。
生活排水対策の推進	浄化槽の設置補助や下水道に関する出前講座等を通じ、生活排水による環境負荷の低減を図ってきました。
緑化・景観保全の推進	自治会等に花苗などの緑化資材を提供し、沿道や公園の緑化と地域の環境美化を進めてきました。また、屋外広告物の申請時の審査や市内パトロールを行い、違反広告物への是正指導を行ってきました。
空き家・空地の適正管理	管理不全空き家について、所有者への助言・指導や法的措置を行い、特定空家等の除却・改善を促進してきました。また、丹波市美しいまちづくり条例に基づき、雑草の繁茂等がみられる空き地の所有者に適正管理を求めてきました。
空き家を活用した移住・定住の促進	丹波市版空き家バンク「住まいるバンク」により、空き家を地域資源として活用し、移住・定住と地域の担い手確保を進めてきました。
太陽光発電施設の適正導入	令和6年4月に「丹波市太陽光発電施設と地域環境との調和に関する条例」を施行し、200㎡以上の地上設置型太陽光発電施設を届出対象とし、禁止区域や抑制区域を設定するとともに、設置基準等を定めました。

【今後に向けた主な課題】
- 不法投棄が一定数みられるため、引き続きパトロール等により不法投棄防止を進めることが必要
- 地域での清掃活動や緑化活動等の担い手が減少傾向にあり、人口減少や高齢化が背景にあると考えられる

【基本目標5】人の輪で育む環境づくり

市民参加による環境美化	道路、河川、公園等のごみを回収する丹波市クリーン作戦を継続し、市民参加による環境美化と地域コミュニティの形成を進めてきました。
自然学習施設を利用した環境学習の推進	青垣いきものふれあいの里において、生き物の観察会、自然体験学習プログラム、企画展、出前講座等を実施してきました。また、氷上回廊水分れフィールドミュージアムを、氷上回廊の地形、生態系、歴史・文化等を総合的に学ぶ施設として運営し、地域学習、企画展、ワークショップ等に活用してきました。
地球温暖化対策の普及啓発	地球温暖化対策への理解を深めるため、丹波市地球温暖化対策講演会を開催しました。
氷上回廊の情報発信	「氷上回廊」ホームページを通じ、地域特有の地形や生物多様性、セツブンソウ、バイカモ等に関する情報を発信してきました。
市産農産物の利用促進	輸送に伴う温室効果ガス排出の抑制や、安全・安心な地場産物の供給に向け、学校給食への市産農産物の使用を進めてきました。

【今後に向けた主な課題】
- 市民の環境に関する理解を具体的な行動につなげ、持続可能なライフスタイルに転換していくことが必要

◆市民の環境に関する認識・満足度（市民アンケート結果の概要）

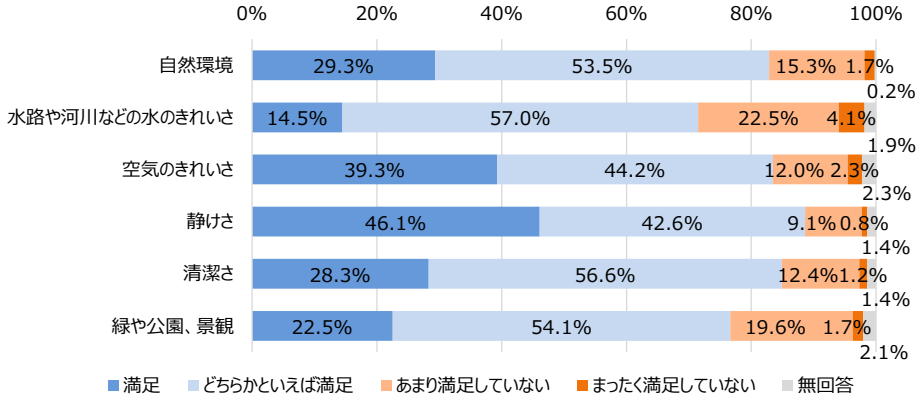
2025年11月～12月に市民アンケートを実施し、市民の環境に関する満足度や認識、市民の取組状況等について把握しました。

調査対象：15歳以上の市民1200人　回収率：40.3%

調査方法：郵送配布・郵送回収（Web併用）

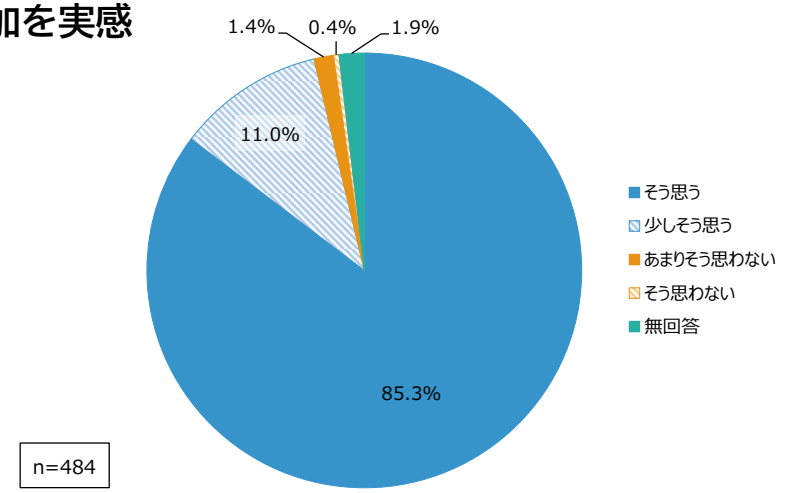
○住まい周辺の環境について7割以上が満足

住まい周辺の環境に対する満足度は、すべての項目で「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が7割以上となっている。「静けさ」が88.7%と最も高く、次いで「清潔さ」が84.9%、「空気のきれいさ」が83.5%、「自然環境」が82.8%となっており、丹波市の静穏で自然豊かな生活環境が高く評価されています。一方で「水路や河川などの水のきれいさ」については、「満足」の回答（14.5%）が他の項目と比べて低くなっています。



○ほとんどの市民が地球温暖化による猛暑日や大雨などの増加を実感

猛暑日や大雨の頻度の増加など、地球温暖化が進むことによる、気象及び気候の極端な現象の発生頻度が高まっていると感じるかという問いに対して、「そう思う」と回答した市民は85.3%、「少しそう思う」は11.0%で、両者を合わせると96.3%となっており、ほとんどの市民が気象や気候の変化を感じている結果となっています。

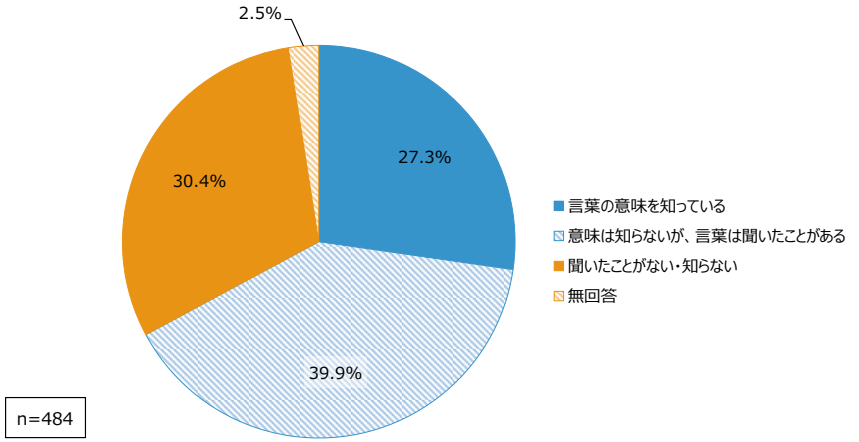


n=484

◆市民の環境に関する認識・満足度（続き）

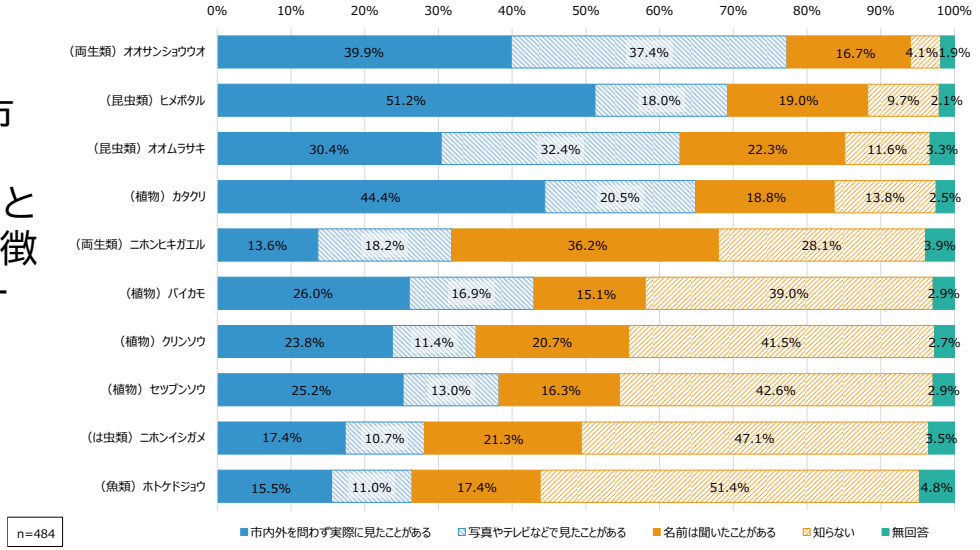
○約7割の市民が生物多様性の意味を知らない

「生物多様性」という言葉の認知度（「言葉の意味を知っている」＋「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」）は67.2%でした。また、生物多様性の言葉の意味を知らない（「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」＋「聞いたことがない・知らない」）市民が70.3%であり、生物多様性についての周知・理解醸成を図る必要があります。



○丹波市らしい生き物でも認知度が低い

生き物の認知度について「知らない」と回答した市民は、ホトケドジョウが51.4%、セツブンソウが42.6%、クリンソウが41.5%、バイカモが39.0%となっています。これらの種は丹波市らしい自然を象徴する生き物ですが、「知らない」と回答した市民が一定数いるという結果となりました。



◆環境をとりまく国内外の主な動向

○ウェルビーイング／高い生活の質

国の『第六次環境基本計画』（2024年5月）では、環境保全を通じた「ウェルビーイング／高い生活の質」が最上位の目的に掲げられています。

○ネイチャーポジティブに向けた生物多様性保全の推進

『昆明・モントリオール生物多様性枠組』（2022年12月）や『生物多様性国家戦略2023-2030』（2023年3月）では2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現が掲げられています。また、自然共生サイトの法制化や外来生物法の改正など、生物多様性保全に関する取組が加速しています。

○2050年カーボンニュートラルに向けた目標の強化

2050年カーボンニュートラルに向け、国は、2013年比で2035年度に60%削減、2040年度に73%削減する目標を新たな「日本のNDC（国が決定する貢献）」で示しました。

○循環経済への移行

プラスチックごみ対策や食品ロス削減を含め、資源の有効活用と循環経済への移行が重視されています。

◆基本的視点

（1）第2次丹波市環境基本計画を継承した計画づくり

里地里山の保全、資源循環、源流等に代表される丹波市らしい取組を検討。

（2）しあわせ（≒ウェルビーイング）に繋げることを意識した計画づくり

高い生活の質の維持・向上のため、市民の生活に身近な環境をよりよい形で維持していくことに対する取組の検討。

（3）分野別計画との関係を意識した計画づくり

関連する各分野別の計画との整合性を確保できるものとなること

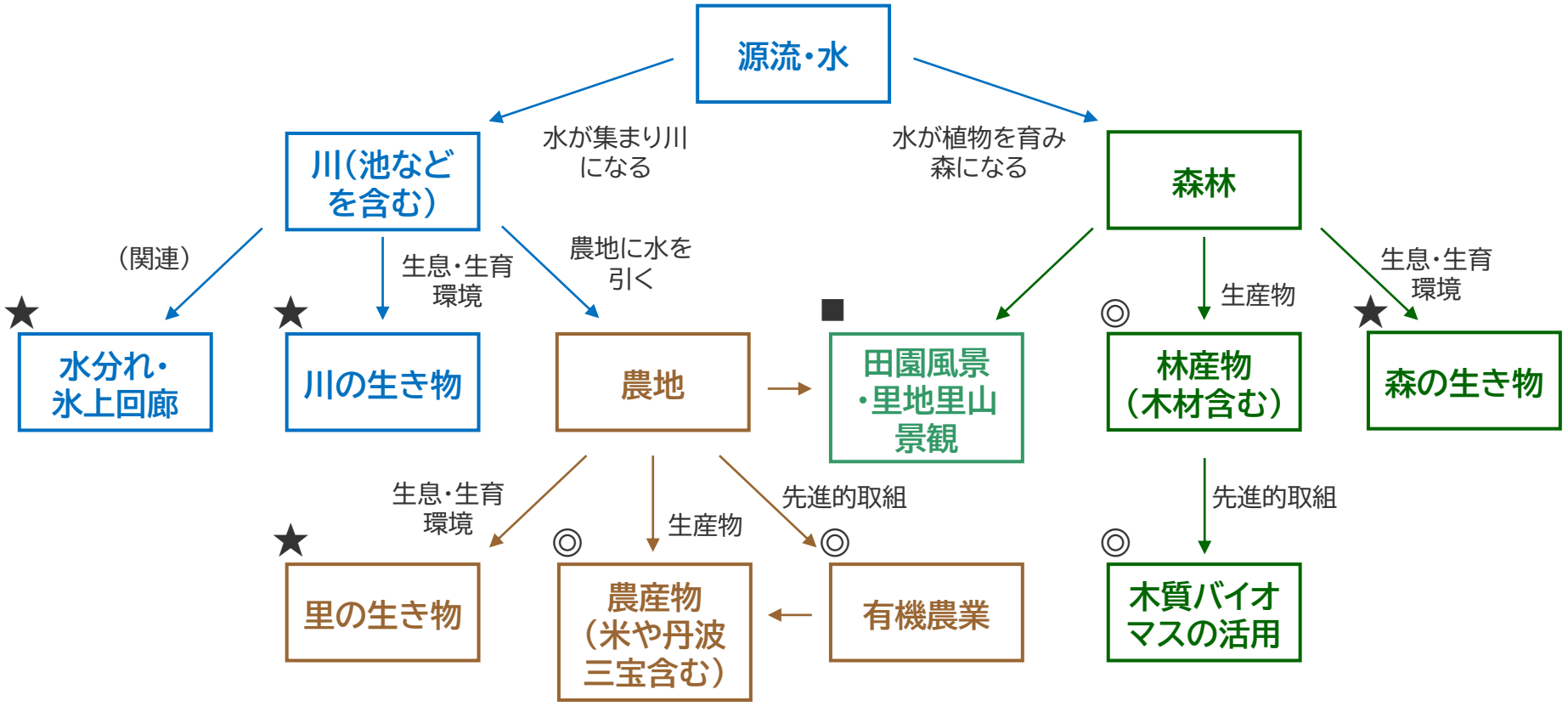
（4）生物多様性の保全を盛り込んだ計画づくり

豊かな自然環境のもとで育まれた生物多様性を保全するため、丹波市の自然環境に対する理解促進や、生態系や農林水産業等への被害が懸念される外来種防除や有害鳥獣対策に対する取組の検討。

市の環境に関する主な特徴

◆丹波市の環境に関する主な特徴

丹波市の環境に関するトピックについて、“源流・水”というキーワードから相互連関をフローチャートで整理しました。その結果、田園風景・里地里山環境、多様な生き物、資源循環・恵みという特徴が際立ちました。



■：田園風景・里地里山景観

★：多様な生き物

◎：資源循環・恵み

田園風景・里地里山景観

山・川・農地・集落により成り立つ田園風景・里地里山景観が全域的に広がっていることは、丹波市の特徴の一つとなっています。河川沿いの低地や盆地・谷筋に水田と集落が広がり、山々が取り囲む風景は丹波市らしいといえ、平坦な農地から屏風状に連なる山々や空の広がりを望むことができます。こうした風景は、農林業を営みながら地域の自然を暮らしに活かしてきたことで形成されてきました。

一方、かつてのような農地や山林の利用が行われない場所もあり、農地や山林の荒廃は課題と言えます。

写真

写真

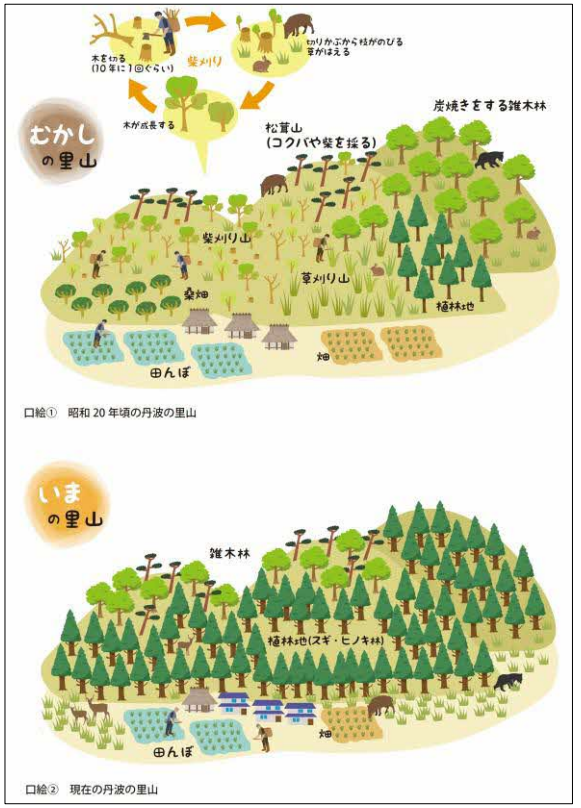


図　むかしの里山といまの里山
出典：里山文化啓発冊子「丹波里山文化物語」

遠阪地区の里地里山

青垣町遠阪地区では、加古川源流の遠阪川流域に田畑や森林がモザイク状に広がっています。周囲を山々に囲まれた谷筋に、加古川源流の遠阪川と田畑、集落、里山林が連なり、山・川・農地・集落が調和した丹波市らしい農村景観が形成されています。古くから農林業を通じて自然が利用・管理されてきたことで良好な里山の生態系が保たれ、ヒメボタルやゲンジボタル、セツブンソウ、クマガイソウ、アズマイチゲ、オオサンショウウオなど、多様な動植物が生息・生育しています。地域では、セツブンソウ群生地の保全やホタルの観察会、川の生き物調査、森林の保全作業などが行われており、こうした自然環境と地域の取組が評価され、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されています。

写真

多様な生き物

森林や河川、農地などのさまざまな環境があることで、多様な生き物が生息・生育していることは、丹波市の特徴の一つです。また、「水分れ」と呼ばれる本州一低い中央分水界があったり、「氷上回廊」と呼ばれる瀬戸内海へ流れる加古川水系と日本海に流れる由良川水系を繋ぐ、水分れを中心に南北にのびた低地帯があります。「氷上回廊」は、生き物が南北に移動する経路として重要な役割をはたしてきたため、北方系と南方系の生き物がともに生息・生育しており、豊かで特徴的な生物多様性がみられます。



図　氷上回廊

川の生き物

河川や水路には、清流を好むバイカモやホトケドジョウ、ヤマメ、オヤニラミ、ゲンジボタルなど、さまざまな生き物がみられます。森林から流れ出す水と、川岸の草地や水辺の環境が、これらの生き物の生息・生育を支えています。


ホトケドジョウ


バイカモ

森の生き物

森林には、ミヤマクワガタやリスなどの動物や、セツブンソウ、カタクリ、アズマイチゲをはじめとする林床植物など、多様な生き物が生息・生育しています。森林内のさまざまな環境が、それぞれの生き物のすみかとなっています。

写真
カタクリ


ミヤマクワガタ

里の生き物

水田、畑、集落周辺の草地や山裾、里を流れる河川には、タヌキやキツネ、コウノトリ、シュレーゲルアオガエルなど、人の暮らしに近い環境を利用する生き物がみられます。人の営みと関わりながら、多様な生き物が育まれてきました。

写真
○○○

写真
○○○

保全活動

丹波市では、ホトケドジョウやセツブンソウ、バイカモなどの希少種について、地域団体や市民による保全活動が続けられています。自然観察会や環境学習も行われており、地域の自然を知り、守り、次世代へつなぐ取組が広がっています。

写真

資源循環・恵み

自然の恵みを地域で活用・循環させてきたことは、丹波市の重要な特徴です。丹波市では、農産物、木材、山菜などの農地や森林から得られる多様な恵みを享受し、地域で循環させてきました。木質バイオマスの利用や有機農業など、地域の自然資源を活かしながら循環させる先進的取組は地域の誇りになり得るといえます。

また、森林や農地は、例えば水源の涵養や生き物に生息・生育の場を提供するなど、生態系サービスを提供していることも重要であり、人が農林業を行うことで維持される恵みです。

恵みの
写真／イメージ

農の恵みと循環

豊かな水と肥沃な農地に恵まれており、米や野菜をはじめ、多彩な農産物が生産されています。なかでも、丹波栗、丹波黒大豆、丹波大納言小豆は「丹波三宝」と呼ばれ、丹波を代表する特産物として広く知られています。

また丹波市では、化学肥料・農薬の使用を抑えた有機農業が進められてきました。市島地域では、1970年代から有機農業に取り組み、「有機の里いちじま」として全国を先導してきました。畜産農家から出る資源を良質な堆肥にして農地へ還元する市島有機センターなど、土づくりの基盤も整っています。2023年3月には兵庫県内で初めて「オーガニックビレッジ」を宣言し、市民・農業者・企業が力を合わせ、豊かな恵みを未来へつなぐまちづくりを進めています。

写真

写真

森の恵みと循環

市域の多くを占める森林は、林産物（木材や山菜など）という恵みをもたらしています。市産材を建築物や木製品などに活用することは、森林整備を促し、健全な森林を次世代へ引き継ぐことにつながります。市内には木材関連事業者が数多くあり、市内だけではなく県内の木材需要も支えています。市も「丹の木づかい推進プラン」や地元産材の利用に対する補助を通じて、市産材の利用拡大を林業・木材産業の活性化と健全な森林づくりへつなげています。

また、間伐材や未利用材、木材加工時の端材などは、薪や木質チップとして熱や電力に利用できます。薪ストーブ・薪ボイラーの普及を通じて、森林資源を地域のエネルギーとして活かす取組が進められているとともに、市内では木質バイオマスを活用したバイオマス発電が行われています。

写真

写真

◆丹波市の環境に関する「強み」「弱み」「機会」「脅威」

強み(Strength)

里地里山・田園風景

里地里山・田園風景が概ね全域的に広がっていることが特徴である

耕作地や市街地の周辺が山々に囲まれている風景は魅力的といえる

自然に係る地域資源

丹波ブランドの農産物(例:丹波三宝―丹波大納言小豆、丹波栗、丹波黒大豆)や、四季の花々、雲海・丹波霧、パラグライダー、丹波竜など、自然環境にかかわる地域資源が多数ある

市民の満足度が高い

自然環境に満足している市民が多い。その理由は、自然とふれあえる里山や河川、豊かな農地・山林などがあることである

気候変動対策

ゼロカーボンシティ宣言の表明や丹波市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定を行い、脱炭素に向けた取組を加速させている(例:J-クレジット、スマートエネルギー導入促進補助金など)

特徴的な自然環境・貴重な生きもの

水分れや氷上回廊という生きものの移動や分布に関わる特徴的な地形がある

兵庫県版レッドリスト(生態系、植物群落、地形、地質、自然景観)に掲載されている特徴的な自然環境が数多く存在する。例えば、源流域や渓谷、社叢、滝、地層など、着目すべき自然環境がある

絶滅危惧種(兵庫県版レッドリスト掲載種)も多く、セツブンソウ、クリンソウ、カタクリ、バイカモ、オオサンショウウオ、ヒメボタルなどの貴重な生きものが生息・生育している

日本海側と瀬戸内海側の気候が混在していることにより、多様な動植物が生息・生育している

遠阪地区は環境省の重要里地里山に選定されている

市内には、巨樹・巨木林が多数みられる

生物多様性保全や普及啓発に関する取組

長年、ホトケドジョウやクリンソウ、バイカモなどの保全活動に取り組まれている方々がいる

青垣いきものふれあいの里や氷上回廊水分れフィールドミュージアムなど、生物多様性の普及啓発に資する施設が複数存在する

市は、自然環境に関する普及啓発冊子やホームページの構築など自然環境に関する普及啓発に積極的に取り組んでいる

ごみの分別・資源化に向けた取組

ごみの分別・リサイクルへの関心が高く、家庭での分別やマイバッグ利用などの取組が定着している

市は、プラスチック製品の分別回収を開始するなど、ごみの資源化に向けた取組を進めている

有機農業

有機農業の歴史があり、オーガニックビレッジ宣言や丹波市立農の学校など環境にやさしい農業の取組が進められている

弱み(Weakness)

担い手不足

高齢化や後継者不足により、田園風景を形作る農業の担い手が減少している

森林・里山の維持管理の担い手不足が懸念される

農作物被害・生態系への影響等

シカ、イノシシ、クマなどの野生鳥獣による農作物被害や生活環境等への影響が発生している

シカの食害による、希少種を含む植物や昆虫類などへの影響が懸念されている

外来種や病害虫による影響

クビアカツヤカミキリ、スクミリンゴガイ、オオキンケイギクなど、既に市内で確認されている外来生物による農業や生態系等への影響が懸念される(※防除の取組あり)

ナガエツルノゲイトウなどの外来生物について今後の侵入・定着が懸念される

マツ枯れやナラ枯れなど、病害虫による里山の森林への影響がある

市民の感じる不満・懸念

市民の約17%がお住まいの周辺の自然環境に満足しておらず、その理由として農地・山林の荒廃や野生生物による農作物被害等が挙げられている

太陽光発電施設(特にメガソーラー)の設置に対し、森林・農地、景観などへの影響を懸念する声がある(※調和を目指す条例あり)

河川へのごみの不法投棄は課題

自動車・オートバイからの交通騒音は課題

環境保全活動をはじめたい市民への活動に関する情報提供が不足

野焼きの煙や悪臭、工場や事業所からの煙や悪臭は課題

生物多様性という言葉の意味を「知らない」という市民が約7割となっている

機会(Opportunity)

国の第六次環境基本計画・兵庫県の第6次環境基本計画において、ウェルビーイングの実現が重視されている

2050年カーボンニュートラルに向けた目標・制度が強化され、脱炭素化の取組が国内外で進んでいる

生物多様性(ネイチャーポジティブ・自然共生サイト等)

生物多様性国家戦略2023-2030において、2030年までのネイチャーポジティブ実現が掲げられている

事業者の関心の高まりや地域生物多様性増進法制定などにより、自然共生サイトに関する動きが加速している

外来生物法の改正により、身近な外来生物も含めた適切な管理、防除、普及啓発の重要性が高まっている。外来生物防除に関する交付金もある

第5次循環型社会形成推進基本計画により、プラスチック資源循環や食品ロス削減、循環経済への移行が重視されている

環境にやさしい農業や生物多様性に配慮した農林水産業、持続可能な農林水産業などが推進されている

脅威(Threat)

猛暑や大雨などの極端な気象現象が増加し、災害の激甚化や健康被害、農林業への影響が懸念される

市周辺に生息する侵略的外来種が侵入・定着してしまうことで、在来生物の生息・生育環境や農林業等に影響が生じる可能性がある

気候変動により、動植物の生息・生育環境が変化し、地域の生態系に影響が及ぶおそれがある

大規模太陽光発電施設が設置されると、里地里山景観や田園風景が損なわれる可能性がある

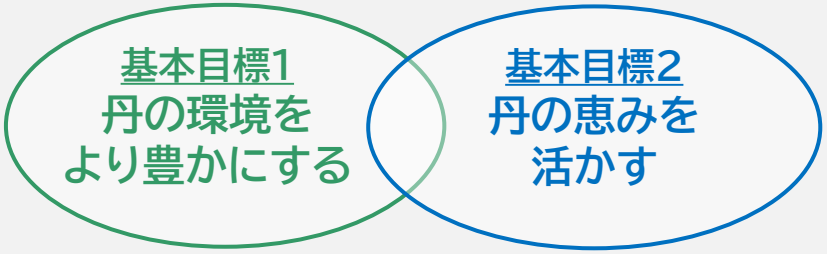
目指すべき環境像と実現に向けた施策体系

目指すべき環境像

（キャッチフレーズ＋イラスト）

目指すべき環境像を踏まえた
今後10年間の基本目標

基本目標



目指すべき環境像・基本目標の
実現・達成に向け必要なこと

施策の柱

里地里山景観の維持	源流域や重要な生態系の保全	野生鳥獣との軋轢を低減	再生可能エネルギーの活用	3Rの推進
環境創造型農業の推進	多様な生き物の保護	生物多様性の普及啓発強化	省エネルギーの推進	生活環境の保全、不法投棄防止、美化活動の推進
丹波の森林の活用	外来種対策の強化	エコツーリズムの推進	気候変動への適応	持続可能なライフスタイル・事業活動の推進

キャッチフレーズ：

丹波の森と農を活かし、人と自然が共生する源流のまち（仮）



※本日は目指すべき環境像に含める要素についてご意見をいただきたい。図中、文字で記載している要素を今後イラスト化する想定であり、過不足等を伺いたい。

基本目標1
丹の環境を より豊かにする

【基本目標1：丹の環境をより豊かにする】

○加古川水系・由良川水系の源流域の自然環境や、里地里山の美しい景観、ホトケドジョウやオオサンショウウオ、バイカモなどの在来の多様な生き物を保護・保全していきます。

○良好な環境は暮らしの基盤です。きれいな空気や水、静かで清潔な生活環境が維持され続けることは重要です。さらに、快適できれいな街並みとなるよう、ごみのポイ捨てや不法投棄を抑制するとともに、ごみ回収及び適正処理を当たり前のように実施していきます。

○近年、気候変動による酷暑や豪雨などの異常気象がみられます。これ以上の気候変動を防止するため省エネの推進や再エネの導入を推進するとともに、気候変動の影響を低減する適応策（例：暑熱対策）を推進していきます。

○多くの市民・事業者が市の自然環境や生物多様性の豊かさを理解できるよう、普及啓発を推進します。これにより、日々の暮らしや事業活動における環境配慮や自然環境の管理・再生への参加等を促します。

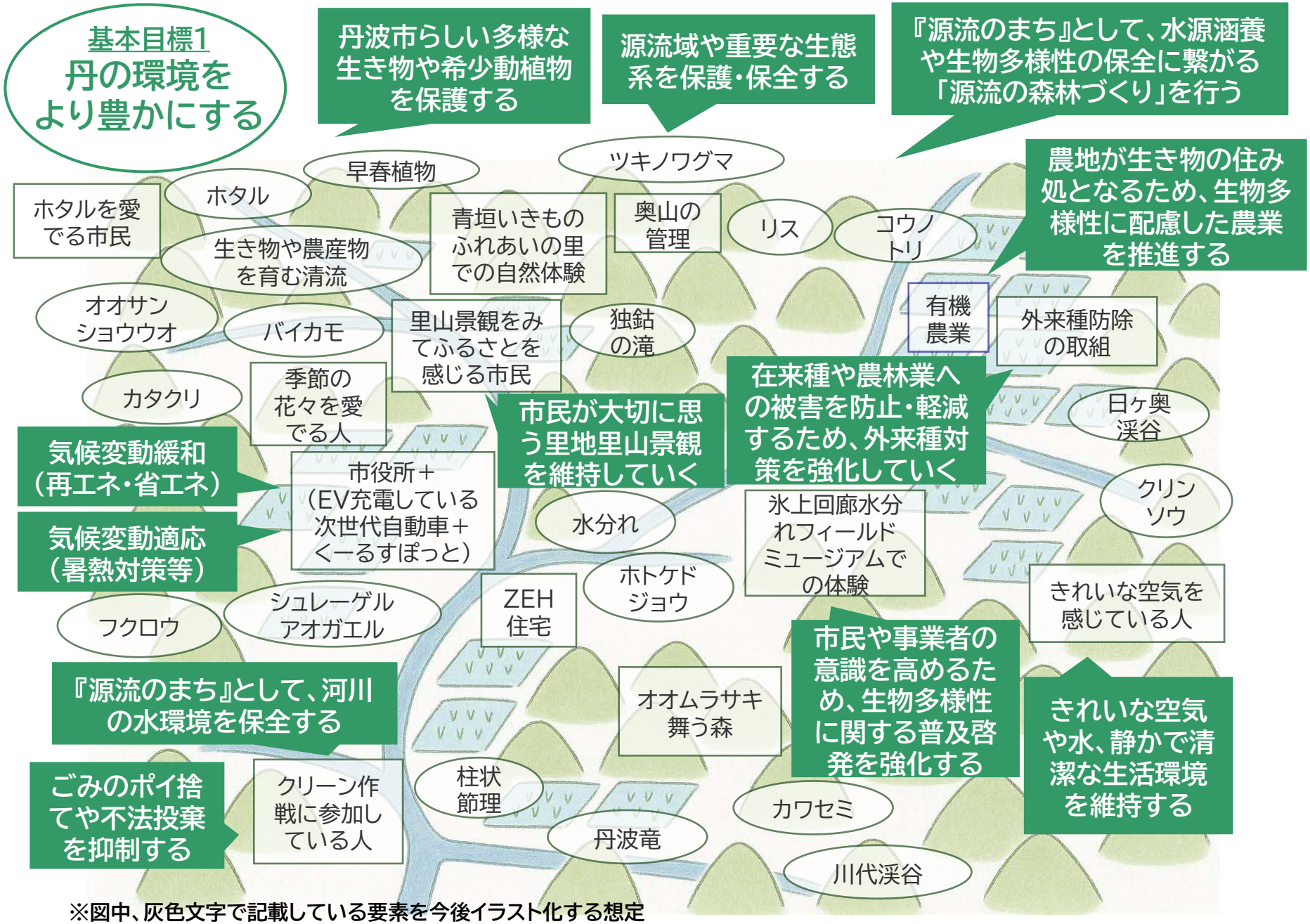
基本目標2
丹の恵みを 活かす

【基本目標2：丹の恵みを活かす】

○里地里山では、自然の恵みである農産物・林産物が生産され、資源循環していることが特徴です。これらの資源循環・地産地消を継続するとともに、環境に配慮した農林業が推進されるよう取り組みます。

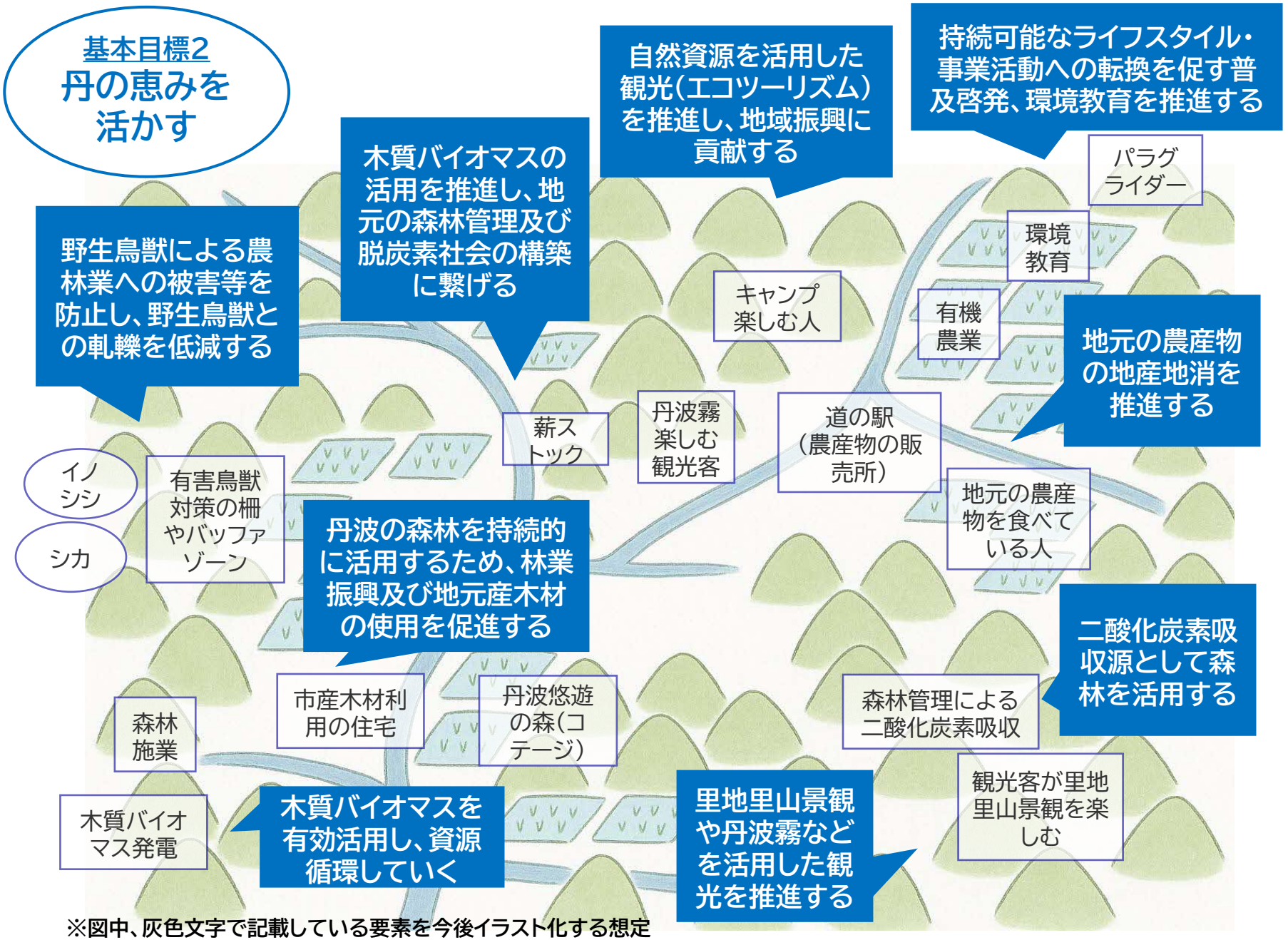
○「丹波の森林」を積極的に活用し、木材生産や木質バイオマスとしての利用、さらには二酸化炭素吸収源としての利用も推進します。

○丹波市らしい自然観光資源を活用したエコツーリズムを推進し、地域活性化に貢献します。



※図中、灰色文字で記載している要素を今後イラスト化する想定

基本目標2
丹の恵みを活かす



※図中、灰色文字で記載している要素を今後イラスト化する想定

【施策の柱】	【施策の方向性（項目）】
里地里山景観の維持	里山林の管理、農地の維持（農業の担い手確保等）、地産地消の推進、里地里山に関する市民意識の向上
環境創造型農業の推進	オーガニックビレッジ構想の推進（丹波市立農の学校を含む）
丹波の森林の活用	林業振興、地元産木材利用の促進、木質バイオマスの活用、二酸化炭素吸収源としての活用（ J-クレジットに関する取組）
源流域や重要な生態系の保全	源流の森林づくり、県立自然公園・鳥獣保護区等による保護、自然共生サイトの促進
多様な生き物の保護	希少動植物の保護、市民参加型調査の推進
外来種対策の強化	外来種の防除を推進、外来種に関する啓発
野生鳥獣との軋轢を低減	野生鳥獣による農林業被害の低減、シカ食害による生態系被害対策
生物多様性の普及啓発強化	生物多様性関連施設におけるイベント開催等による普及啓発、HP「氷上回廊」運用、生物多様性関連冊子の配布・頒布

【施策の柱】	【施策の方向性（項目）】
エコツーリズムの推進	丹波竜などの地域資源を活用した環境と調和する観光振興の推進
再生可能エネルギーの活用 ※エネルギーを創る	住宅・建築物への再生可能エネルギー・蓄電設備の導入推進、バイオマスの有効活用の推進、再生可能エネルギー熱の活用
省エネルギーの推進 ※エネルギーを賢く使う	住宅・建築物の省エネルギー化の推進、省エネルギー設備、省エネルギー家電の導入・普及推進、地域公共交通の環境整備、電力の地産地消の検討
気候変動への適応 ※気候変動に備える	気候変動の影響に関する情報収集・情報発信、気候変動に適応した地域づくりの推進
3Rの推進	リデュース・リユース・リサイクルの推進
生活環境の保全、不法投棄防止、美化活動の推進	大気環境や水質などの保全、不法投棄防止、美化活動の推進
持続可能なライフスタイル・事業活動の推進	持続可能なライフスタイルや事業活動への転換を促進、環境教育の推進

具体的施策　※詳細は次回検討

施策の柱1　里地里山景観の維持

【基本的考え方】
（施策の柱1の基本的考え方を文章で記載）

【施策の方向性】

〇里山林の管理
（里山林の管理に関する施策の方向性を文章で記載）

〇農地の維持
（農地の維持・農業の担い手確保等に関する施策の方向性を文章で記載）

〇地産地消の推進
（地産地消に関する施策の方向性を文章で記載）

〇里地里山に関する市民意識の向上
（里地里山に関する市民意識の向上に関する施策の方向性を文章で記載）

施策の柱1に
関連する写真

施策の柱1に
関連する写真

【指標】
（施策の柱ごとに指標を記載）

計画の推進体制と進行管理　※次回検討

資料編

〇第3次丹波市環境基本計画の策定経緯について
〇丹波市環境審議会について
〇丹波市環境基本条例
〇・・・